

令和4年度旭川未来会議2030 子育て分野 第4回分野別会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年7月1日(金) 午後6時30分から午後7時5分まで
- 2 開催場所 秘書課 第2応接室(旭川市6条通9丁目 旭川市総合庁舎2階)
- 3 出席者(参加者) 小林香澄
早川由理
丸山恵理
山田覚
吉田育子
※敬称略, 五十音順
- 4 出席者(市側) 中村副市長
(運営事務局)
子育て支援部 浅田部長, 竹内次長
子育て支援課 高橋課長補佐, 清原子育て企画係主査
おやこ応援課 川村課長, 柴田主幹, 堤課長補佐, 宮城こども健康係主査
(統括事務局)
総合政策部
広報広聴課 中屋課長, 山本広聴係長, 乙坂広聴係主査, 広報係 村田
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 2名(傍聴1名, 報道機関1名)

7 内容

●参加者から報告

【スライド1】

旭川未来会議2030 子育て分野 の発表をさせていただきます。

【スライド2】

子育て分野では、「(仮称)あさひかわおやこひろばについて」をテーマとして、

- ・施設全体について
- ・遊びの空間の, 機能, 設備, 玩具, 図書などについて
- ・愛称について
- ・将来的に付加する機能やイベントについて

の4点について議論しました。

【スライド3】

子育て分野の参加者は, 今まさに子育て中のお父さんやお母さん, 子育て支援に関わる活動をしている方, 現役の保育士さんなど, 子育ての経験と知識をお持ちの方です。

これまでに3回の会議を行い, 1回目の会議では, ツルハビルを見学した後, 施設全体について, 2回目の会議では, 愛称, 遊びの空間, 将来的に付加する機能やイベントについて, 3回目の会議では,

それまでの会議で出た意見を基に、愛称の候補や、私たちが考えるおやこひろばについて意見の取りまとめを行いました。

それでは、まずは、会議で出た意見について発表していきます。

【スライド4】

まず、施設全体について、出た意見です。

1点目は、利用しやすいこと、です。

やわらかく、入りやすい雰囲気であること、健診スペースは、保護者がリラックスできて、子どもが落ち着ける雰囲気、子どもが楽しめる雰囲気や配慮があるといいこと、などの意見が出ました。

2点目は、安全・安心であること、です。

ベビーカーや車いすでも利用しやすいこと。隣接する立体駐車場との連絡通路の安全性と利便性、これについては意見や要望がたくさん出されました。それから、施設までの安全な動線の確保が必要との意見も出ました。

3点目は、乳幼児健診のスムーズな受診ということです。

遊びの空間といっても、子どもが興奮しすぎたり、楽しくなりすぎたりしないような配慮が必要ではないかということ、健診をスムーズに受けられるような工夫が必要といった意見が出されました。

【スライド5】

次に、遊びの空間についての意見ですが、先ほどの健診に支障が出ないような静かな遊びがいいのではという意見を踏まえて、置いてあるといいおもちゃや図書について意見交換しました。

おもちゃについては、旭川産の木製おもちゃなど、価格の面でも家庭では手が出しにくいものがあるといいのではないかという意見のほか、知育おもちゃや作業療法士など専門家が選ぶおもちゃがあると、子どもの発達にもいいのではないかという意見が出ました。

図書では、絵本はもちろんのこと、子育てや子どもの発達に関わるような、親に是非読んでほしい本を置くといいのではないかという意見が出ました。

3点目の機能・設備では、「子どもの年齢、発達、タイプにあった本」や「親が読むといい本」などのアドバイスがもらえたり、おもちゃの遊び方、子どもの適性にあったおもちゃの選び方のアドバイスがもらえたり、おもちゃを貸し出してもらえたりといった機能があるといいという話が出ました。

また、はいはいやつかまり立ちの赤ちゃんでも体を動かして遊べるように、ゆるやかなスロープや段差があって、スロープの先がロフトになっていればスペースも確保できるのではないかという意見もありました。

それから、子どもがのびのび遊べることとして、家や人目があるところではできないような遊び、例えば、トイレトペーパーやティッシュペーパーを出すような、そういう遊びを思い切りできる場所になるといいという意見が出ました。

続いて、愛称についての意見です。

【スライド6】

愛称では、まずはイメージとして、第2回会議では、

- ・親子の栄養になる、親子が育つという意味で「芽」という言葉が入るといい。
- ・旭川の歴史やシンボルなどにちなんだ言葉が入るといい。
- ・おやこひろばという名前はいいので、仮称の「あさひかわ」に変わって、覚えやすい言葉があるといい。
- ・あまり長いと、略されたりして、かえってわかりづらいので、長くても5文字程度の名前がいい。
- ・親子の架け橋、人と人や、支援とをつなぐ架け橋になるようにという意味と、橋は旭川市のシンボルでもあるので、架け橋という言葉でアイヌ語などの言い換えができるといい。

などの意見が出ました。

【スライド7】

そうした意見を踏まえ、第3回会議では、スライドにあるように、具体的な候補が出されました。上から、

minnade (ミンナーデ) は、「子どもをみんなで育てる」という思いを象徴する場になるように。

リウカは、アイヌ語で「橋」を表し、親子、地域の人々、行政を「つなぐ」架け橋になるように。

ココカラーは、みんなのカラー、個性を認めて、支え合って、歩みを進めていけるように。

おやこーでは、「親子で」利用する場所であり、支援をコーディネートするという意味を込めて。

おやこたんは、「おやこ」と、場所や集落を意味するアイヌ語の「コタン」を組み合わせ、親子の居場所になるように。

waka・baは、wakuwaku (わくわく)、anshin (安心)、kosodate (子育て)、asahikawa (旭川) のそれぞれの頭文字と「若葉」を掛け合わせ、子どもたちには若葉のようにすくすく育ってほしいという思いと、親には楽しんで子育てしてほしいという思いを込めて。「ba」には、居場所などの「場」の意味も含まれています。

これらの具体案について協議した結果…

【スライド8】

waka・baがいいということになりました。

waka・baは、言葉自体になじみがあり、短くて、覚えやすく言いやすいほか、意見にもあった「芽」ともイメージがつながることから、ここを利用する皆さんにも親しみを持ってもらえるのではないかと考えました。

このあと発表しますが、ロゴの案も考えており、真ん中の「・」には、芽をイメージしたイラストが入ります。

続いて、将来的に付加する機能やイベントについての意見を発表します。

【スライド9】

将来的に付加する機能やイベントについては、とてもたくさんの意見が出ました。そのどれもが大事なので、少し長いですが、ここから3ページに渡って記載しています。

時間の都合もありますので、ここではかいつまんで発表します。

まず、こういう場所になってほしいという意見です。

子ども総合相談センターに相談するのは、親御さんにとってハードルが高い。

気軽に悩みを相談できるようにする工夫として、検診や「なにかのついでにちょっと相談できる」ことが大切で、そのために、行政支援につなぐ前の役割として、日替わりや週替わりで、子育て支援に関わる民間の方が主宰するイベントがあったり、ふと立ち寄ったときに気軽に相談できる人が誰かしらいるような場所であれば、親御さんにとっても新しく旭川に転入してきた方にとっても気軽に相談できる雰囲気になる、などの意見が出ました。

続いて、その②です。

【スライド10】

また、健診以外の機会に街の中心部に行くことに抵抗がある人もいるので、ここに来れば何か学べる、親子で楽しい体験ができる、気持ちがラクになる、何か得られるものがあることが大事。

子どもがやりたいようにのびのび遊べて、それをあたたかく見守ってくれる。

子どもの発達に詳しい人がそこにおいて、子どもを遊ばせながら、ふとした雑談の中で悩みを相談できて、発達段階の知識に基づいたアドバイスや、大丈夫だよ、と安心させてくれる声掛けなどがあると、

親子にとっての居場所になっていく。

市内には子育て支援に関わる色々な活動をしている人がたくさんいるので、この場所を通して地域や民間の人たちが子育てに関わり、親子とつながり、行政の支援にもゆるやかにつないでいくことができれば、みんなにとってWinWinになる、などの意見が出ました。

続いて、その③です。

【スライド11】

その③では、こういう機能やイベントがあるといいという意見をまとめています。

- ・図書館の分室のように、ここで本の貸出しや返却ができたり、読み聞かせボランティアによる読み聞かせをしてくれたり
- ・わらべうた、ベビーマッサージ、手遊びなどの親子で参加できるイベントや
- ・パパ向けのイベントやパパの日、などがあるといい。

ママを笑顔にすること、ママを支えることがパパの大切な役割なので、パパ向けのイベントや講座、パパどうしで交流できる「パパの日」などがあるといい、という意見がありました。

また、子どもや保育に関わる仕事をを目指す学生をボランティアとして受け入れたり、先ほど旭川産の木製おもちゃの話が出ましたが、例えば旭川農業高校や地元の企業とタイアップして、ここに置く木製のおもちゃを制作してもらうなど「産学官の連携」も取り入れてはどうか、というアイデアをお持ちの方もいらっしゃるので、ご紹介いたします。

ここまでの、会議で出た意見の内容になります。

続いて、これらの意見を踏まえて、私たち子育て分野で、理想の「waka・ba」を考えたので発表します。

【スライド12】

まずは、waka・baの全般的なことについてです。

上段には、私たちが考えたロゴの案を載せています。

wakaの部分は、それぞれの言葉をイメージする色で表しており、baの部分は、若葉や草地をイメージする黄緑で表しています。

wakaとbaの間には、芽、じょうろ、水のイラストを入れて、親子が成長して若葉に育っていく栄養になる場所ということがイメージできるようにしました。

下段には、waka・baの基本的な考え方を載せています。

最後は、みんなで子育て、です。

子育てをしている保護者は、子どもとの関わり方、子どもの行動、子どもの成長や発達、夫婦間や親との関わりや、周囲と比べてしまったりと、多かれ少なかれ、みんななにかしらの悩みを抱えています。

そうした保護者の不安を少しでもやわらげ、安心して子育てしていくためには、周囲の理解と寄り添いは欠かせません。

waka・baに行けば、自然と誰かとつながることができて、自分を受け入れてもらえて、「大丈夫だよ」と言ってくれる、そういう場になってほしいと思います。

続いて、waka・baにあるといい機能・設備についてです。

【スライド13】

基本的なレイアウトについては、スライドにありますとおり、事務局から示された案で問題ないと思います。

ただし、左上にある安全な利用の確保には十分に配慮してほしいと思います。

ベビーカーなどでも利用しやすいようにしていただくことはもちろん、いろいろな状況の方がいますので、困ったときには職員がサポートしてくれるような体制も必要です。

その下のフリースペースですが、当初は、遊びの空間とされていましたが、必ずしも遊びだけでなく、イベントなどにも使用できる空間になると、より気軽に利用できますし、waka・baの存在価値が高まると思います。

そのために、例えば、柵と兼用の可動式の仕切りなどで、利用目的や状況にあわせて、柔軟な空間運用ができるといいと考えました。

また、静かで落ち着いて遊べるようなおもちゃや絵本などを置くと、健診にも支障が出にくく、子どもの成長を後押しすることにもつながると思います。

フリースペースと健診スペースの中間部分については、可動式の仕切りがあると、健診があるときには、遊びから健診への導入空間として使用できますし、イベントにも使用できると思います。

右上のインフォメーションディスプレイは、その日の行事予定が一目でわかるような掲示板としてのほか、デジタルサイネージのように、市全体の子育てに関わる情報などを発信してもらえると、保護者の方が検診の待ち時間などに子育てに関する様々な知識や情報を得ることができます。

その下のトイレには、子ども用の便器の設置、子連れだと荷物が多くなるので、個室に荷物置きがあること、また、お父さんが健診に連れてくることもあるので、男性用トイレにもベビーシートやベビーベッドがあること。

その他、全般的なこととして、

- ・明るく楽しい雰囲気の内装。具体的には、旭川の木を使ったサインの掲示、若葉や木をイメージした緑や木目調の色・柄の壁や床、あさひやま動物園の動物がところどころに描かれている、といったイメージです。
- ・荷物を入れられるロッカーの設置
- ・気軽に雑談や相談ができるコーナーやブースの配置
- ・また、子育てで知りたいことや希望するイベントなどを投函できるポストや利用者の声を貼っていくような掲示板などがあると、より親子のニーズに添ったイベントの企画や情報発信につながると思います。

次に、将来的に付加する機能やイベントについて、です。

【スライド14】

私たちは、waka・baが、親と子、人と人、困っている人と行政、などをつなぐ架け橋になってほしいと考えています。

市内には、子育てに関わる様々な活動をしている方がたくさんいます。

そうした方々が、日替わりなどで常駐していて、健診や遊びのついでに、雑談のように気軽に話ができるようになると、相談することへのハードルも下がり、そこから必要な行政の支援にもつなげられるのではないのでしょうか。

ここでいう支援とは、必ずしも行政だけではなく、民間の団体や個人、ボランティアも含めた子育て支援です。

それにより、親子と行政や民間がつながり、まち全体で子育てを支えていく、見守っていく雰囲気がつくられていくと思います。

もう1つ、お父さん、お母さんが気軽に参加できるイベントを企画してほしいと思います。

お父さんが子育てについて学んだり、お父さん同士でコミュニケーションが取れるようなパパ向けのイベントや、お母さんが少し子どもと離れてリフレッシュできるようなイベントもあるといいです。

例えば、ネイルやメイク、ミニ講座など、自分のことだけを考える時間があると、

心にも余裕ができ、またがんばろうという気持ちになります。

そのほか、将来的な機能やイベントについては、非常にたくさんの意見がでましたので、その中で『できること』から順に実施して行ってほしいと思います。

それでは、最後に、今回の未来会議を通じて私たちが考えた『目指すまちの姿』について発表します。

【スライド15】

今回、「あさひかわおやこひろばについて」をテーマとして会議を重ねてきた中で、私たちは、旭川を、『自分の子育てに安心と自信が持てるまち』にしたいと考えました。

そのためには、「安心・子育て」として、親子・地域・行政のみんなで子どもを育てる、という意識と体制が整うことが大切です。

子育て支援＝親支援に尽きる、と言われます。

そういう意味で、妊娠期から乳幼児期をはじめ、子育て全体を通じて、親御さんが『1人じゃない』と感じられるように、民間や行政の垣根を越えて、連携してサポートすることが重要です。

同様に、頼れる人がいる。頼る場所がある。ことも重要です。

子育てに悩まない人はいません。しかし、悩みが深ければ深いほど、なかなか人には相談できず、ひとり抱え込んでしまいがちです。そして、信頼できる人にしか、悩みは打ち明けられないものです。

自分がいっぱいになった時、ふと立ち寄った場所で、温かい眼差しで親子に寄り添ってくれた。悩みを共有してもらえて、気持ちを受け止めてもらえた。そんな、信頼できる、頼れる人がいる。頼れる場所がある。そして、それを知ってもらうことが大切です。

もう1つは、「わくわく・子育て」です。

子育て支援というと、どうしても悩みや不安に寄り添うことに目が向きがちですが、本来、子育ては喜ばしく、楽しいものです。子育ての楽しさや喜びを共有し、伝えることも必要です。

そうしたことにより、旭川を、保護者が安心して、自信を持って子育てできるまちにしていきたいと考えています。

以上で、子育て分野の報告を終わりますが、今回の未来会議を通じて、前向きに未来を向いて議論すること、否定されず意見を受け入れてくれることが、こんなにも楽しいことだということを感じました。

このような機会を作っていただいた今津市長には感謝いたしますし、またどこかでこのような場があればうれしいです。

ご静聴いただき、ありがとうございました。

●中村副市長

子育て分野の皆様、ありがとうございます。

この（仮称）あさひかわおやこひろばは、私が子育て支援部長のときにスタートしています。

児童虐待や発達に困難を抱える子どもの増加など、子育てに関する新たな課題が増えている中で、子ども総合相談センターと他の課が連携して対応しようとしたときに、物理的な距離などの問題がありました。

そうした中、乳幼児健診を主体として、子どもの発達などの素朴な疑問や質問に対応できないかということ、買い物などのついでに気軽に立ち寄ることができて相談できるといった、核になる場所が作れないかという検討をしていました。

私のイメージは、小児科のクリニックです。今の小児科は、キャラクターを使用したインテリアであったり、遊具を設置したりというように、昔と違って子どもも行きやすい雰囲気づくりをしています。そういう場所を全域からアクセスしやすいまちなかに作れたらという思いがあります。また、お父さん、お母さんや子どもが集まりやすい、来やすい施設にしたいという思いがあり、健診以外の機能として、どのようなものがあるといいかということも考えていました。

その点で、本日の発表は、私が悩んでいたことの解決に向けたヒントや回答そのものといえる内容でした。また、行政とのつながりだけでなく、親同士の横のつながりが作れるということへのヒントもあり、非常にありがたく思います。

この施設は、オープンして終わりではなく、利用されるお父さん、お母さんや子どもが育っていくように、施設も育てていきたいと思っており、成長し、変わっていくようにしたいと考えています。

今後、9月中のオープンに向けて準備を進めていく中で、いろいろな制約もあり、すぐにできることばかりではありませんが、将来的に付加する機能やイベントで非常に多くの意見をいただいたことをしっかりと受け止め、参考にしながら、オープンまでにできることは取り入れていきますし、オープン後も利用者の声を聞きながら、更に育てていきます。

この場所を、旭川の保護者がほかに自慢できるような施設にしていきたいと考えていますので、引き続きよろしくをお願いします。

この度は、本当にありがとうございました。